

# ヒメウズラ・コリンウズラの孵化マニュアル

Ver. 2.0

自然環境活用開発合同会社

## 【はじめに】

本マニュアルは、初めて有精卵の孵化を試みるお客様、孵化が上手くできない方向けに、有精卵の取り扱いや孵化方法について記載しております。ただし、有精卵も生物です。本マニュアル通り孵化を試みても、上手く孵化できない事もございます。ご了承ください。また、卵は全て有精卵とは限りません。日本うずらのペアから生まれた卵では、人工孵化率が60%前後という実験結果も出ております。

## 【孵化に必要な物について】

ヒメウズラ・コリンウズラの有精卵を孵化させるためには、以下の機材と道具が必要です。エサ以外は、卵が届く前に揃えておきましょう。特に孵卵器は先に購入しておきましょう。当社から卵が届いた時に、直ちに孵化器に入れることができる環境を整えておきましょう。

### 1 孵卵器

### 2 注水器

### 3 LED ペンライト

### 4 ヒナ用飼育ケース

### 5 ヒナ用ヒーター

### 6 ウズラ用のエサ

### 1 孵卵器

孵卵器には自動転卵装置が付いている装置と付いていない装置があります。初めて孵化を試みる場合は、自動転卵装置付きをお勧めします。自動転卵装置は、機種により転卵方式が違いますので、注意して下さい。敷板で仕切る方式の転卵装置では、卵の重心の関係上、上手く転卵できない場合があります。時々、手で転卵してあげて下さい。自動転卵装置が付いていない孵化器の場合、後述の【転卵について】を参照して下さい。

## 2 注水器

孵化器に水を注入するために必要なシリンジ（注射器）です。100円均一ショップ等で購入可能です。孵化器の温度は下げずに注水できます。孵化器内の水を切らした場合、卵が孵らないので注水はこまめに行いましょう。

## 3 LED ペンライト

LED ペンライトは、孵化の進行を観察する検卵のために使います。部屋を暗くしてから、卵に光を当てると、内部を見ることができます。孵化が無事に進行していると、内部に均一な影が見えます。無精卵や停止卵の場合、影は見えず光が透過して、卵の下方に何か溜まったような物が見えます。孵化しない卵は孵化器から取り除きましょう。LED ライトは、孵化器に付属している場合もあります。100円均一ショップでも購入できます。

## 4 ヒナ用飼育ケース

ヒナが卵から孵った後に飼育するためのケースです。孵化した後2週間は温めながら飼育する必要があります。ヒナの数や中に入れるヒーターの大きさ、電気コードを出す口などを考慮しながら、適切なサイズを選びましょう。

## 5 ヒナ用ヒーター

孵ったヒナは、まだ毛が生えそろっていません。約2週間は、温めて育てる必要があります。ヒヨコ電球を始め、色々な種類のヒーターが市販されていますので、飼育ケースのサイズと外気温を考慮しながら、選びましょう。

## 6 ウズラ用のエサ

ヒナが孵ると、翌日か翌々日からエサを食べ始めます。水と餌を飼育ケースの中に準備しておきましょう。ウズラ用のエサは販売している店が少ないので、事前に購入しておきましょう。なお、ヒナはまだ小さいので、水やエサ入れはペットボトルキャップなどが良いでしょう。

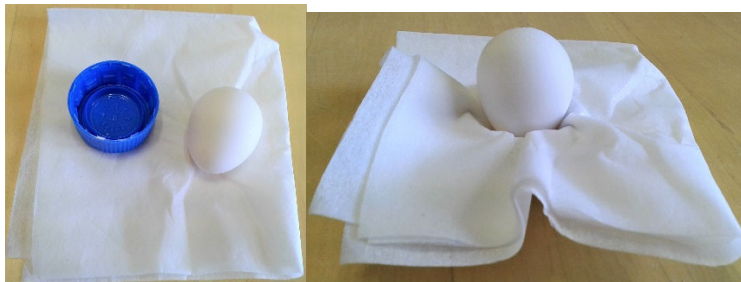
## 【卵と孵卵器の取り扱いについて】

卵が届いた時、直ちに注意深く孵卵器に入れましょう。当社では入念に卵をチェックしておりますが、万が一卵が汚れていた場合、濡れたティッシュペーパーで優しく拭いてください。それでも取れない汚れは、汚れではなく殻の一部です。強引に取りようとするすると割れるので、注意しましょう。決して、**卵を水道で直接流さないで下さい。**

孵卵器は事前にスイッチを入れて38℃にセットしておきましょう。孵卵器は説明書通り、水も入れておきましょう。湿度は、最初低めで次第に高くすることが望ましいとされています。**水は絶対に枯らさないで下さい。**

### 【オプション】

家の周囲や道路の舗装が悪く荒れている道がある場合、卵に細かい振動が伝わります。その結果、卵内の空気が全体に拡散している可能性があります。この場合、卵を立てて空気を自然な状態に戻す必要があります。ペットボトルのキャップとティッシュペーパーを利用し、卵の尖った方を下にして、一晩立てて置きましょう。



組み立て前

組み立て後

直ちに卵を孵卵器に入れることが出来ない場合、卵を20℃以下の日かげで保存して下さい。保存は卵の尖った方を下にして、水で濡らしたティッシュペーパーと共に、ビニール袋に入れて行ってください。保存期間は3～5日です。保存期間が長くなると、孵化率が低下します。ご注意ください。なお、**絶対に冷蔵庫には入れないで下さい。**

### 【コリンウズラの場合】

コリンウズラの場合、湿度もとても重要です。特に卵を温め始めた時、湿度が60%を超えていると、初期停止卵となります。検卵すると全く孵化が進んでないように見えて、無精卵と判断してしまうかもしれません。特に夏は部屋の湿度も高いため、孵卵器内の水は少なくしておきましょう。孵化予定日の1-2日前になったら、水を入れて湿度が80%以上となるように調整しましょう。

孵化予定日の1日前になった時、温度を37.5℃に下げます。温度が高いとヒナが卵の殻を割って出てくる時、体力をかなり消耗してしまいます。

### 【転卵について】

卵を人工的に孵化させる場合、卵が常に同じ側が下にならないように卵を回転させる必要があります。これを「転卵」と言います。

自動転卵装置が付いている孵卵器では、卵をセットするとき、卵が回転することを確認しましょう。特に敷板を利用する転卵装置では、枠を手動で動かしてみましょう。卵がうまく回転しない場合、敷板の間隔を調節しましょう。

自動転卵装置がない孵化器の場合、自分で転卵を行う必要があります。**ヒメウズラ・コリンウズラの場合、最低1日4回行う必要があります。1回1/4回転、できるだけ等時間おきに転卵してください。**1日4回の場合、6時間おきが理想です。もちろん、転卵の回数はもっと多くても構いません。

転卵は孵化予定日の1-2日前まで行って下さい。なお、転卵が上手くできていない場合、停止卵となって孵化しません。また、胚の一部が内側でくっついてしまい、奇形が生まれる危険性があります。

### 【補足：乾式孵化法】

乾式孵化法では水を全く入れないか、少量の水を入れて、湿度を約30%に調整します。そのまま孵化予定日の3日前（ヒメウズラ：14日間、コリンウズラ：21日間）まで転卵しながら、37.5-38℃で温めます。残りの3日間は、転卵を止めて、水を加えて湿度70-80%で温めます。湿度設定が転卵停止まで低く設定されているだけで、最後の3日間は、これまでの孵化条件と変わりません。

乾式孵化法の考案者は、高すぎる湿度が孵化に悪影響を与えていると考えました。湿度が低い場合、卵の13%に当たる水分が蒸発するそうです。この13%分を補うだけの湿度があれば良いと考案者は考えました。そこで、15-30%の湿度が設定されました。他の養鶏業者に乾式孵化法を試してもらった所、孵化率が良くなった人もいましたが、変わらなかった、悪くなったという人も居たそうです。乾式孵化法は検証が不十分で、確実ではありません。乾式孵化法を採用するときは、その点を考慮して、慎重に行ってください。

## 【孵化した時の注意点について】

38℃で温めた場合、ヒメウズラは17日後、コリンウズラは22－24日後に孵化が始まります。孵卵器の温度が低い場合、また開閉により温度の下がった状態が続いた場合、孵化が遅くなります。孵化予定日は、ヒナが次々と孵ります。

孵ったヒナは、ヒナ用ケージに直ぐに移しても良いですが、孵卵器が大きい場合に限って、半日程度なら孵卵器の中で飼育しても構いません。ヒナが動き回って、周りの卵を刺激して孵化を促してくれます。また、卵が割れてもヒナが出て来られない場合もあるので、卵はこまめにチェックしましょう。自然界なら親鳥が卵の殻を突いて、孵化を促します。親鳥の代わりに、卵の殻を少し突いて割って、ヒナを卵から出してあげましょう。卵から出て来られないヒナは、死んでしまいます。予定日を過ぎても孵化しない卵は、LEDライトでチェックしましょう。予定日より2－3日遅れることもあります。

## 【よくあるご質問】

### 【質問1】

早く孵化させたいので、40℃で温めても良いですか？

### 【回答1】

孵化は37－39℃で行って下さい。高い温度では、孵化しません。

### 【質問2】

低い温度で孵化させるとメスが生まれると聞いたことがありますが、本当ですか？

### 【回答2】

鳥類では、卵を温める温度でオスメスが決まることはありません。卵の孵化温度でオスメスが決まるのは、カメなどの一部の爬虫類です。

### 【質問3】

卵にヒビが入ったのですが、孵りますか？

### 【回答3】

ヒメウズラの場合、大きなヒビが入ってしまうと孵らない可能性が高いです。コリンウズラの場合、厚い卵殻膜があるので、ヒビが原因で孵らないということ

はありません。ヒビが入った場合、乾燥しないように特に湿度に気を付けて下さい。

**【質問4】**

卵が孵らない原因は何が考えられますか？

**【回答4】**

卵が孵らない原因は、様々です。転卵が上手く出来ていなかったこと、遺伝的な欠陥、高湿度、温度変化などが挙げられます。

ヒメウズラの場合、一番考えられる要因は、転卵の失敗です。自動転卵装置が付いた孵卵器の場合、装置が機能することを事前に確かめましょう。次は温度変化です。孵卵器の温度維持性能や設定温度が内部の温度と同じなのか、事前に確かめましょう。また、検卵を行う場合、卵の温度が下がらないように、手早く行いましょう。

コリンウズラの場合、高い湿度が一番の原因です。コリンウズラの孵化は、湿度が高いと停止卵になります。孵卵器の水は少なめにしましょう。特に卵を温め始めた最初の1-2日は、湿度を低めにしましょう。夏場は湿度が高く、気温も高いため、湿度が上がり過ぎないように注意しましょう。

**【質問5】**

転卵のため、ペンで卵に印をつけても良いですか？

**【回答5】**

はい、小さい印なら大丈夫です。

**【質問6】**

ヒメウズラ・コリンウズラの飼育の際、何か届け出は必要ですか？

**【回答6】**

特に届け出の必要はありません。家禽用日本ウズラを飼育する場合は、届け出が必要です。

**【質問7】**

ヒナにウズラ用のエサをそのまま与えて大丈夫ですか？

**【回答7】**

はい、大丈夫です。あまり食べないようでしたら、すり鉢等で細かくしてあげて下さい。

ご意見、ご要望、ご質問等がございましたら、メールにて承っております。

自然環境活用開発合同会社

〒259-0201

神奈川県足柄下郡真鶴町真鶴570-11

HP: <https://www.jansdec.com/>

E-mail: 08shizen@gmail.com